

研究開発ポートフォリオの軸設定と

1名分料金で
2人目無料

仕組み構築およびマネジメント手法

◆日時:2018年10月22日(月) 10:30~16:30

◆会場:江東区産業会館 第2会議室

◆聴講料:1名につき49,980円(税込、昼食・資料付)

※会員登録(無料)をしていただいた方には下記の割引・特典を適用します。

・1名でお申込みされた場合、1名につき**47,250円**

・2名同時でお申し込みされた場合、**2人目は無料(2名で49,980円)**

※学生のご参加は、1名につき受講料10,800円です。

(ただし、企業在籍者は除きます。また、2人目無料も適用外です。)

セミナーお申込みFAX

03-5857-4812

※お申込み確認後は弊社よりご連絡いたします。

【講師】ベクター・コンサルティング(株) 代表取締役社長 浪江 一公 氏 ※日本工業大学大学院技術経営研究科(MOT) 教授

【講座の趣旨】

今企業のトップやリーダークラスの方は、研究開発マネジメントにおいて場当たり的ではなく、将来を見据えた戦略的な経営資源の配分をしていかなければなりません。本セミナーにおいては、このような環境において考えていかなければならない視点を、様々な研究開発ポートフォリオの軸として説明し、その対処策としての研究開発ポートフォリオの全体像を紹介した後、実際に研究開発ポートフォリオを構築し、そしてそのポートフォリオをマネジメントしていくための具体的な活動を紹介します。また、最後にはX社の研究開発ポートフォリオを例に、グループワークによる演習をしていただき、研究開発ポートフォリオのマネジメントの実際を体験いただきます。

【受講対象】

研究開発部門、研究開発企画、技術企画、経営企画などの部門の方々で、

- 研究開発戦略の策定に関与されている方
- 研究開発ポートフォリオに関心を持たれている方
- 研究開発のマネジメントを俯瞰的に見たいと考えている方 など

【プログラム】

1. 最初に

- (1) 日本企業の置かれている現実 (2) 日本企業の研究開発マネジメントの現実
(3) 研究開発ポートフォリオの大きな目的

2. 研究開発ポートフォリオ・マネジメントとは？

- (1) ポートフォリオとは何か？ (2) 研究開発におけるポートフォリオの意味
(3) その1: 未来に向かっての準備の確実化
(4) その2: キャッシュの流れのマネジメントツール (5) その3: リスクの分散
(6) その4: 研究開発の目的とそのマネジメントの視点の明確化
(7) 経営者の役割とポートフォリオ・マネジメントの関係

3. 研究開発ポートフォリオの企業事例 -日立製作所

4. 研究開発ポートフォリオで利用する評価軸例

- (1) 市場×製品(アンゾフの成長マトリクス)
(2) 市場×技術(自社精通・自社未知・世界未知) (3) 自社技術体系中の技術
(4) 対象事業 (5) 研究開発のタイプ(改善・革新・基礎)
(6) 広義の研究開発の活動 (7) SEDAモデル (8) What vs. How
(9) 技術の成熟度(揺籃・成長・成熟・老衰)
(10) 技術の重要度(萌芽・途上・戦略・基盤) (11) 技術水準
(12) 市場投入までの時期 (13) 研究開発ステージ

5. 研究開発ポートフォリオの仕組み構築の全体像

6. ステップ1: 研究開発の大きな方向性の設定

- (1) タスク1: 現状での重要課題認識のまとめ (2) タスク2: マクロ環境分析
(3) タスク3: SWOTを利用しての戦略・施策のまとめ
(4) タスク4: 研究開発の大きな方向性のまとめ

7. ステップ2: 研究開発ポートフォリオ軸の設定

- (1) 本ステップの位置付け (2) 研究開発ポートフォリオ軸設定上の注意点

8. ステップ3: 研究開発ポートフォリオの目指すべき姿構築

- (1) 研究開発ポートフォリオ資源配分案設定作業手順
(2) タスク1: 各象限での目標数値(アウトプット)の設定
(3) タスク2: 経営資源インプット算定ロジックの構築
(4) タスク3: 経営資源インプット設定 (5) 注意点: 毎年見直し、進化させる

9. ステップ4: 研究開発ポートフォリオの現状の姿調査

- (1) 研究開発ポートフォリオの現状の姿調査の方法
(2) タスク1: 自社の技術体系の設定
(3) タスク2: テーマ毎の技術への展開と技術単位での評価
(4) タスク3: 全体集計 (5) タスク4: 現状ポートフォリオ上の問題の分析

10. ステップ5: 研究開発テーマ評価の仕組み構築

- (1) 本ステップの位置付け (2) テーマ承認・中止の評価項目の設定
(3) テーマ承認・中止の意思決定法の設定
(4) タスク1: 事前の成果物の評価者への提出と準備
(5) タスク2: 検討会での発表と質疑応答
(6) タスク3: 検討会での評価者間の議論と意思決定

11. ステップ6: 研究開発テーマ創出の仕組み構築

- (1) 本ステップの位置付け (2) 研究開発テーマ創出のためのフレームワーク

12. 演習

- X社の研究開発ポートフォリオについて(グループワーク)

《質疑応答》

『研究開発ポートフォリオ』セミナー申込書

FAX: 03-5857-4812

会社・大学			
住所	〒		
電話番号		FAX	

● セミナーの受講申込みについて ●

左の申込みフォームに必要な事項をご明記の上、FAXでお送りください。お申込み後は、弊社より確認のご連絡をいたしまして受講券、請求書、会場の地図をお送りいたします。セミナーお申込み後のキャンセルは基本にお受けしておりませんので、ご都合により出席できなくなった場合は代理の方がご出席ください。

お申込み・振込に関する詳細はHPをご覧ください。
⇒ <https://www.rdsc.co.jp/pages/entry>

個人情報保護方針の詳細はHPをご覧ください。
⇒ <https://www.rdsc.co.jp/pages/privacy>

会員登録(無料) ※案内方法を選択してください。複数選択可。

Eメール 郵送

株式会社R & D支援センター <https://www.rdsc.co.jp/>

〒135-0016 東京都江東区東陽3-23-24 VORT東陽町ビル7階

TEL 03-5857-4811

FAX 03-5857-4812